

7.14  
発送

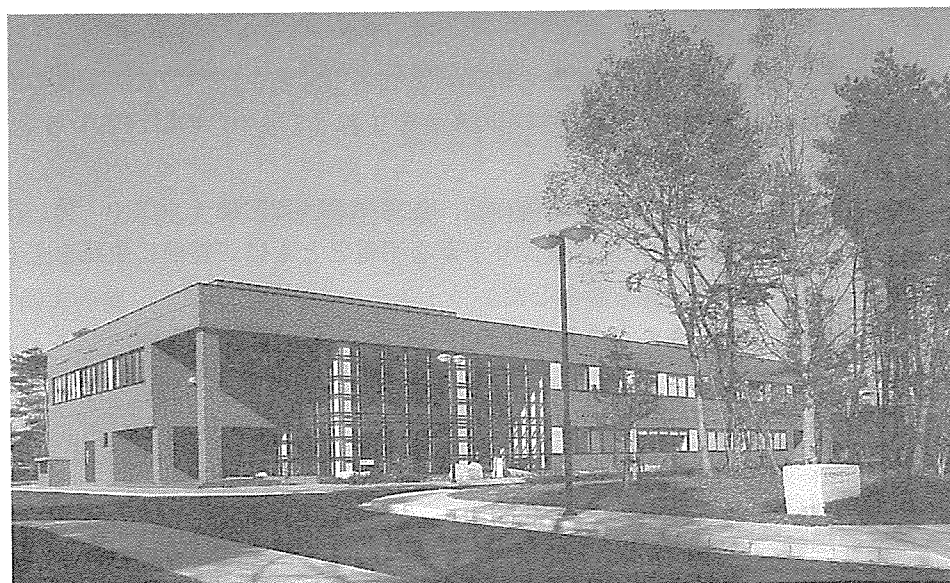
# 筑波大学名誉教授の会会報

第2号

1997年6月発行  
〈題字：中村仲夫〉

## 目次

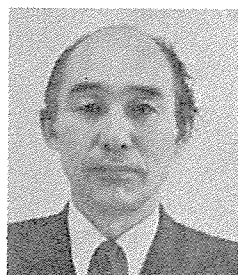
新会長挨拶 .....	松木 重雄 .....	2
第11回筑波大学名誉教授の会総会報告 .....	菅野 三郎 .....	2
元学長阿南功一先生の逝去を悼む .....	小宮 正文 .....	3
大学の近況（先端学際領域研究センター） .....	村上 和雄 .....	4
会員だより .....	酒井 忠夫 .....	5
	江田 昌佑 .....	5
	徳丸 克己 .....	6
	佐藤 昭二 .....	6
会務報告 .....		7



先端学際領域研究センター（TARA）

# 新会長挨拶

松木 重雄



本会の会報第2号が発行されますことについて、編集関係者諸賢の御努力に対し、感謝と敬意を表します。多数の先輩諸先生のいらっしゃる中、私のような者がこの会の会長に選出されましたことを恐縮至極に存じ、行きがかり上御引き受けいたしましたことを先ず御了承賜り、御寛容下さることを御願いたします。

言うまでもなく本会は「名誉教授会」という官制を思わせるような組織ではなく、「名誉教授の会」と「の」を入れまして、入るも出るも自由なおおらかな親睦集団であります。当初20数名でありましたこの会も去年は324名、今年お入りになる先生方を加えますと、恐らく350名前後の大集団になります。一口に集団と申しましても構成員の諸先生方は、それぞれの研究分野の権威で、今尚御研鑽を続けられ、今日のが国文化の牽引力であられることを、本会の一員としてこの上もなく頼もしさと誇りを覚えます。

言うまでもなく私達は、去ると雖と筑波大学の関係者であります。私達の一挙一動は筑波大学の学生、教職員諸氏に多大の影響を与えることに疑いありません。大いに自粛、研究を重ね、その指導的役割を果たそうではありませんか。

終わりに会員諸先生の御健勝と益々の御発展をお祈りし、重ねて編集員諸氏に謝意を表します。

## 第11回筑波大学名誉教授の会総会報告

副会長 菅野 三郎

本会の第11回総会は平成8年12月2日筑波大学会館の国際会議室において午前11時から約1時間にわたって開会された。小西会長は病後の静養のため欠席されたため、松木・菅野の両副会長が代行した。出席者総数51名、当日の会議の主要事項は次の通りである。

### 一. 報告事項

#### 1. 庶務報告

##### 1) 会員数について：

本会への入会者は平成6年度の新名誉教授からの入会者46名（57名中）、平成7年度の新名誉教授からの入会者23名（26名中）及び未加入の名誉教授からの入会者5名（7名中）の計74名である。なお、現時の会員数は326名である。

2) 第10回以降本総会までの間に、本会会員 岩崎洋治、佐藤弓葛、森田紀一、山中 勇、三浦 功、西村敏男の各先生が逝去された。本会を代表し会長より丁寧な弔電とともにご霊前に生花を差し上げた。総会においては出席者一同物故会員のご冥福を祈念した。

3) 平成7年11月以降本日まで叙勲された会員は次の方々である。

三宅和夫先生、陣内 巖先生、宇土正彦先生、大内茂男先生、木下 明先生、江崎春男先生  
これらの先生方の栄誉を祝し、会長より祝電を差し上げた。

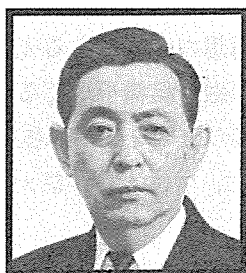
#### 2. 会計報告

1) 収入の部：……………	1,227,993円	2) 支出の部：……………	1,227,993円
内訳：前年度繰越金 ……	50,876円	内訳：会議費 ……	28,840円
預金利子 ……	1,497円	電報料 ……	35,788円
会費 ……	735,620円	供花代など ……	65,114円
懇親会会費 ……	440,000円	懇親会費 ……	422,500円
		小計：……………	552,232円
		次年度繰越金 ……	675,761円
合計 ……	1,227,993円	合計 ……	1,227,993円
有価証券保有状況（定期貯金、平成7年度末）：	1,811,0円		

## 二. 協議事項

1. 任期満了に伴う会長、副会長（1名）の交代について  
総会に諮った結果、会長には松木重雄副会長が選任され、新たに欠員となった副会長は花田毅一委員（第2学群関係）が指名された。
2. 各学群選出の役員の任期満了に伴う役員（半数）の改選について  
かねて関係学群から役員会に申し出の通り承認された。
3. 次期総会は明年（平成9年）11月ころに東京において開催することが承認された。
4. 会報の第1号が発行されたが、さらに年間1～2回をめぐりに発行することとなった。

以上



生年月日：1924年2月15日

最終学歴及び卒業年月日：1946年9月 東京帝国大学 医学部 医学科

1952年3月 東京大学医学部大学院 特別研究科 生化学専攻

主要前歴：1952年12月 東京医科歯科大学 助教授 医学部

1964年7月 東京医科歯科大学 教授 医学部附属心臓血管病研究施設

1973年11月 筑波大学 教授 医学専門学群長 1978年5月 筑波大学副学長

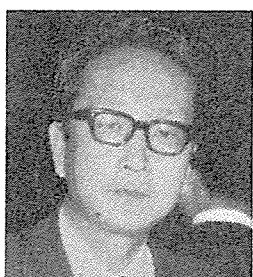
1986年4月～1992年3月 筑波大学学長

1997年3月24日 正三位 勲二等旭日重光章

阿南功一氏は、病氣療養中のところ、去る3月24日、逝去されました。告別式は、4月3日（木）、東京カテドラル教会聖マリア大聖堂で行われました。本会よりは、生花を送り、哀悼の意を表しました。

## 追悼の辞

元副学長 小宮 正文

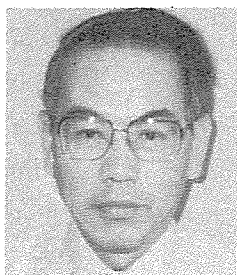


謹んで、故阿南功一名誉教授の御冥福をお祈り申し上げます。故人とは、東大医学部の同期生でしたが、故人は生化学教室、私は内科教室に進み、親しく交友させて頂く、機会はありませんでしたが、私が昭和38年10月に東京医科歯科大学の第一内科教授に赴任致しましてから、同大学の生化学教授におられました故人と、親しく交際が生まれ、特に当時猛威をふるっておりました学生紛争、青年医師団の学内紛争にあたって、若い教授達と共に、色々の課題を検討しあって参りました。後半、故人は大学評議員になっておられましたので、我々よりも一層その解決に苦心されたことと思います。青年医師連合の紛争は、

凡そ10年間ぐらい続いたと記憶しておりますが、昭和47年頃から、医科歯科大学の医学部が筑波新構想大学の医学専門学群の世話校と云うことになり、故人が学群長候補、私が病院長候補として予定される様になってから、益々親密におつきあいすることになりました。その後、多々曲折はありましたが、昭和48年末に、故人と一緒に筑波大学と移り、故人は学生教育面で、私は病院建設面で、共に協力して仕事をして参りました。故人は深い教養を持たれた優れた科学者であられましたので、毎日のように、お会してお話をうかがっていたのでありますが、今にして思えば記憶に残るような局面は、良きにつけ、あしきにつけ思い出に残されていないのが残念であります。故人は昭和61年4月から筑波大学学長に就任され、私は筑波大学医学専門学群の関連病院の一つとして北茨城市立病院院長に転任致しましたので、同じ茨城県ではありますが、距離的にはかなり離れた所に勤務しましたので、学長時代の故人とは、殆ど音信なく過ごしてしまいました。学長時代には、色々と功績をあげられたこと、と思いますが、病院に研修に来る若い医師に尋ねても、要領をえた話をき、えないま、過ごしてしまいました。この様に故人とは極く身近かに接しながら、思い出話しも余りないことは残念に思います。安らかにやすみ下さい。

# 新しい文化を創造する気概 — TARAの挑戦 —

筑波大学先端学際領域研究センター長 村上 和雄 (応用生物化学系・教授)



現在、大学は、終戦以来の大きな改革の時期を迎えています。しかし、大学の研究環境は一般的に悪く、大学の研究者一人当たりの研究費及び補助スタッフは、民間研究者の20%に過ぎません。これは、私ども大学人にも責任の一端があると思います。国立大学の教員は、教育職の公務員として、身分が保障され、大学の自治、学問の自由の旗印のもとに、外部との接触や外部評価を排除する傾向がありました。その結果、学問の新しい動きや、社会の変化に対応せず、閉鎖社会をつくり、悪い意味での“象牙の塔”にこもりがちです。この様な現状を打破するために、筑波大学は、滞米30年以上に及ぶ民間出身の江

崎玲於奈氏を5年前に学長に選出しました。

Tsukuba Advanced Research Alliance (TARA) 構想は、江崎学長の提案であります。この構想の中核である先端学際領域研究センター (TARAセンター) では、①「産・官・学」で異種研究機関の研究者の融合組織をつくる ②厳格な外部評価システムを採用する ③徹底した競争原理を導入する ④重点的な研究環境の整備をする ⑤研究成果の積極的社会還元などの、従来の大学にないユニークな特色を持っております。さらに、TARAプロジェクトには、人間生態システム研究アспект等の文化系のプロジェクトも含まれております。

このTARAセンターが成功すれば、単に筑波大学の研究や教育の活性化だけでなく、日本の大学の先駆的なモデルになり、基礎研究や科学技術の振興に役立ち、さらには、国際貢献の要求にも応えられることと大いに期待しており、今、国の内外から注目されております。

どうか皆様方のご指導、ご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

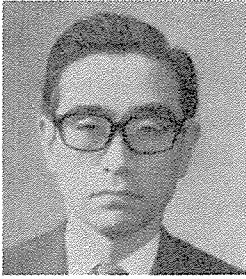
## 平成9年度役職教職員一覧

学長	江崎玲於奈	学群・学類	
副学長 (教育担当)	赤羽 武	第三学群長	名取 亮 (電情)
副学長 (研究担当)	八木 浩輔	社会工学類長	穂鷹 良介 (社工)
副学長 (厚生補導担当)	森 昭三	国際総合学類長	今岡日出紀 (社会)
副学長 (改革・医療担当)	阿部 帥	国際関係学類長	今岡日出紀 (社会)
副学長 (総務担当)	古賀 達蔵	情報学類長	板橋 秀一 (電情)
附属図書館長	斎藤 武生 (現現)	工学システム学類長	永井啓之亮 (物工)
附属病院長	長谷川鎮雄 (臨医)	基礎工学類長	大成誠之助 (物工)
学校教育部長	関岡 康雄 (体育)	医学専門学群長	三井 利夫 (臨医)
企画調査室長	谷村 秀彦 (社工)	副学群長	板内 四郎 (基医)
		副学群長	草刈 潤 (臨医)
<b>学群・学類</b>		体育専門学群長	朽堀 申二 (体育)
第一学群長	野田 浩司 (地球)	副学群長	八代 勉 (体育)
人文学類長	水野 建雄 (哲思)	副学群長	伊與田康雄 (体育)
社会学類長	駒井 洋 (社会)	芸術専門学群長	三田村峻右 (芸術)
自然学類長	菊池 修 (化学)	副学群長	藤原 昌美 (芸術)
第二学群長	大濱 徹也 (歴人)	副学群長	白木 俊之 (芸術)
比較文化学類長	向嶋 成美 (文言)		
日本語・日本文化学類長	湯澤 質幸 (文言)	<b>大学院</b>	
人間学類長	門脇 厚司 (教育)	修士課程長	伊藤 朗 (体育)
生物学類長	牧岡 俊樹 (生物)	博士課程長	楠本捷一朗 (社工)
生物資源学類長	中原 忠篤 (応生)		

# 会員だより

## 筑波大学の伝統

酒井 忠夫



筑波大学名誉教授の中の明治生まれは私一人である。名誉教授の会が結成された当時は人数は僅かに数10名で東教大名誉教授の会に比して少なかったが、この頃は300名以上にもなり、面識のない先生も多くなった。諸先生の中にはわが学園の伝統を御存知ない方もあろうかと思い、会報編集担当の鈴木教授の依頼を受けて筆を執った。

私は満80才を過ぎたころから、2-3年入院手術を受けることがあり、わが人生も先が長くないことを覚悟し、私の60年有余つづけられてきた研究をまとめる決意を固め、現在その仕事を続けている。既にこの1月にその第一冊『中国幫会史の研究青幫篇』を刊行した。私の専門研究分野は中国史であるが、中国の宗教である「道教」と中国農民・民衆の秘密結社「幫会」の2本を軸としている。道教と幫会の研究は、中国の文化や社会の特殊性を明らかにするには最重要の研究課題であり、それを戦時中、中国の民衆・農民に直接会って調査研究できた私は、学究として最も好運に恵まれたものと思う。それだけに私の研究を集成することは、内外のこの方面の学界に対して私は責任があると考えている。

さて、私は筑波大学の前身である東京高師、東京文理大の卒業生（昭和10年卒）の1人である。従って昭和初以来のわが学園の伝統を最も知っている筑波大学人である。筑波大開設当時の掛け声は「国際A級の新幹線大学、国際A級の教授陣」であった。国際A級の教授陣ということでは、戦前の東京高師、東京文理大、戦後の東京教育大各学部の教授陣にもほゞあてはまるものと思う。社会科学系のコースは戦前にはなかったが、人文・自然のコース・学部・学科には旧制帝大級の教授が何人もいた。旧制東大・一高、京大、三高と文理大・高師の間には、有名教授の交流転任が行われた。東京高師の東洋史学の有名教授で、東大・京大に転任した学者を知っている。東京高師、東京文理大、東京教育大の教授に国内外A級の教授が多かったというのは、わが学園・大学の教授陣は、他の複数の旧制大学から国際A級の教授を迎えて充実したからでもある。筑波大学が超国際A級の学者、江崎現学長を迎え一層充実発展することは、わが学園のこれまでの発展の途を知る私どもとしては当然のことと思う。他の各学系も同じであろうが、私の属した歴史人類学系の後輩の教授諸兄も、これまで以上に筑波大学教授の名に恥じない活躍をするものと期待している。

## 近況をお知らせします

江田 昌佑（平成7年3月停年）



停年後、月日のたつのは速いものでもう2年過ぎました。鹿屋体育大学に赴任して2年、昨年8月から学長に就任、大学改革の流れにおそまきながら鋭意取り組んでいる毎日です。

鹿屋体育大学は、筑波大学のちょうど10年おくれたの創設、新構想大学で国立唯一の体育系単科大学です。学生・教職員総勢約900人の小規模大学です。

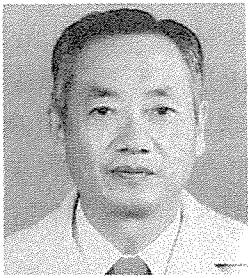
鹿児島県大隅半島の中心、人口8万の鹿屋市に大学は立地し、噴煙たなびく桜島、また眼下に錦江湾を望み、1000m級7つの峰をもつ高隈山の懐にいだかれた風光明媚な自然環境のすばらしい所です。高隈山山頂周辺（約1200ha）が今年3月に生物遺伝資源保存林に設定されたことはご存知の方もあろうかと思ひます。ブナ原生林の南限でもあります。

おかげ様で、小生はこの地に来て血圧も下って元気です。

名誉教授の皆様には益々お元気でご活躍下さい。

## 香港から見える気掛かりな日本

徳丸 克己



私は定年退官後の1995年に1991年設立の最新式大学の香港科技大学（本学の江崎学長はそのcouncil member）に客員教授として赴き、情報の問題について改めて考えさせられた。ここでは、殆どの事項の伝達とその応答や事務的な業務は印刷物でなく、各教職員全員に備えられたコンピューターを用いて電子メール（大学の公用語は英語）で効率よく行われる。

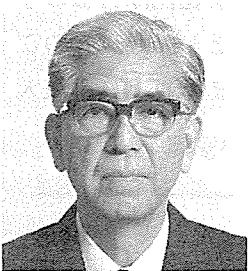
香港の中心部は日本の旅行者で溢れているものの、情報が豊富で、欧米よりも日本に近い香港では、テレビのニュースを通して、日本の存在感の無さを嫌でも改めて見せつけられる。現在の日本には、アジア諸国にとって見るべきものが乏しい上、国際的な場で、他国の人々は、旧ユーゴの内戦の司令官も含めて、自身や自国の意見を肉声の英語で表明するのに、わが国の政治家たちからはその意見の英語という国際語による発信がまず聞こえてこない。聞こえるのは、その日本語の発言の一端のアナウンサー自身の見解に基づく紹介で、必ずしもわが国に好意的とは限らない。それが世界に伝わる。国際的なメディアで、直接に国際語で表明しないで、自国の考えを広く世界に発信できるのか？それは国益を損なわないのか？（本学でも、1989年の第2回産学交流講演会で、いみじくも英語とコンピューターの出来ないのは表現に支障があるという趣旨の指摘があった。）

わが国の情報の把握、発信力は太平洋戦争開始時に米国より著しく低かったが、現在はどうか？他方日露戦争当時の日本の情報力の水準は相対的にまだよかったのか？そうならば、その理由は？この情報力の危機から脱出するには、激動の時代を経験した我々OBにできるのは何か？問題提起かたがた、筆を執った次第である。

\*\*\*\*\*

## 近況報告

佐藤 昭二 元農林学系（平成3年3月退職）



先日大木先生より私のような者に何か書いて送るようにとのご依頼のお電話をいただきまして、大変恐縮いたしました。ご遠慮申し上げるべきと思いましたが、突然のお電話でしたのでそのままになってしましまして、大変僣越ですがお送りすることにいたしました。

私は、平成3年3月筑波大学停年退職し、現在上武大学にお世話になっております。お世話になりました当時は町田貞先生、町田先生ご退職後の昨年10月から渡邊良雄先生

が学長であり、さらに学校法人として大変重要な位置にあります上武第一幼稚園には園長として、そして大学の教授として藤田統先生がおられます。いずれの先生も筑波大学副学長の要職をご歴任された先生方で、私としましては筑波大学在職中と同じく、いやそれ以上に心強く相変わらずご指導をいただいております。上武大学も本年4月から大学院修士課程（経営管理研究科）の開設、大学基準協会の維持会員校となるなど益々の発展の道を邁進しております。上武大学にお世話になっている者として十分なお役に立てず申し訳なく過ごしておる今日この頃です。

筑波大学のさらなる緑豊かなすばらしい大学へと邁進される事切望いたしております。

「筑波大学名誉教授の会」役員名簿

(順不同)

区 分	氏 名	備 考
第一学群関係	島 岡 丘	
	中 川 良 祐	
	柿 澤 寛	
	木 下 明	
	西 澤 龍 生	
	山 本 正 三	
第二学群関係	大 野 清 志	庶務担当
	安 井 恒 男	
	相 原 良 安	
	鈴 木 恕	
	真 野 宮 雄	
	佐 藤 泰 正	
第三学群関係	渡 邊 浩	
	白 山 和 久	
医学専門学群関係	小 泉 準 三	
	橋 本 達 一 郎	
体育専門学群関係	寄 金 義 紀	
	藤 田 紀 盛	会計担当
	大 木 昭 一 郎	会報担当
芸術専門学群関係	杉 田 豊	
	吉 野 純 夫	
	松 木 重 雄	会 長
	菅 野 三 郎	副 会 長
	花 田 毅 一	副 会 長
	鈴 木 博 雄	会報担当

## 会計報告

筑波大学名誉教授の会 平成8年度会計報告(案)

(8.4.1~9.3.31)

収入の部

1. 前年度繰越金	675,761 円
2. 預金利子	1,735
3. 会費(33名)	328,020

合 計 1,005,516 円

支出の部

1. 会議費	53,097 円
2. 電報費(6件)	36,613
3. 供花等料(2件)	31,518
4. 会報印刷費	57,680

合 計 178,908 円

次年度繰越金 826,608

合 計 1,005,516 円

## 有価証券保有状況（平成8年度末）

1. 定額預金 1,811,000円

〔備考〕

### 収入の部

1. 会費は、平成8年度新名誉教授者からの入会者23名（25名中）及び未加入名誉教授者からの入会者10名（16名中）の計33名分です。

### 支出の部

1. 会議費は、役員会（2回開催）における会場費等です。
2. 電話料は、陣内 巖、宇土正彦、大内茂男、木下 明、江崎春雄の各先生の叙勲及び永井 博先生の日本学士院会員就任に対する祝電です。
3. 供花料等は、三浦 功、西村敏男の各先生に対する生花代です。



## 編集後記

さる4月の役員会で会報を年2回、春秋に発行することになりました。今年度は、新しく松木先生が会長になられたので、まず、新会長の挨拶を載せることにしました。その線で編集の準備を進めておりましたところ、阿南前学長逝去の報らが入り、あわてて、編集の一部を組み替えました。幸い、創設時から阿南氏と一緒に筑波大学の医学の創設に尽力された小宮正文元副学長より追悼の一文を戴くことが出来ました。阿南先生の多年の御功労を謝し、御冥福を祈る次第です。

大学の近況としては、筑波大学の研究面での目玉ともいべき先端学際領域研究センターの活動を村上和雄センター長より紹介して戴きました。ここから、創造的で異色の研究が稔ることを期待しております。

筑波大学のOBの方々は、各方面で活躍されていますが、異色の会として「つくばOB会」があります。この会の活動については、次回世話役の田崎名誉教授に書いて戴く予定です。

会員の近況報告としては、徳丸、江田、佐藤（昭二）、酒井の諸氏より御多忙のところ、貴重な原稿を戴きました。編集担当より感謝申し上げます。なお、会員諸氏の御投稿をお待ちしております。

編集担当 鈴木・大木